

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

旭陽エスデック福岡山工場 建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q1 建築物の環境品質			0.32			2.6
1 音環境		2.7	0.15	-	-	2.7
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音	-	1.8	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	-	1.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能	-	3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽衝撃源)	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重衝撃源)	-	-	-	-	-	
1.3 吸音	壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している。	4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.8	0.35	-	-	2.8
2.1 室温制御	-	3.0	0.50	-	-	
1 室温	-	3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能	-	3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性	-	3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御	加湿機能・除湿機能を有し、かつ45%~55%の範囲の湿度を実現することが可能な設備容量が確保されている。	5.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式	-	1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用	-	3.0	0.30	-	-	
1 昼光率	-	3.0	0.60	-	-	
2 方位別開口	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策	-	3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	-	3.0	1.00	-	-	
3.3 照度	照度が500lx以上1000lx未満。	4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.4	0.25	-	-	3.4
4.1 発生源対策	-	4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気	-	3.3	0.30	-	-	
1 換気量	-	3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。	4.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理	-	2.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	-	3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	-	1.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.5
1 機能性		3.1	0.40	-	-	3.1
1.1 機能性・使いやすさ	-	2.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	-	1.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応	-	3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画	-	3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性	-	4.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高2.9m以上。	5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	-	3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理	-	3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	3.2	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	揺れを抑える装置を導入し、部分的に地震時・強風時の内部設備保護が図られている。	4.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数	-	3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ステンレスダクトを使用している。	5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性	-	3.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電設備を備えている。	4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	精密機械の地下空間への設置を避けている。	4.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性		4.3	0.30	-	4.3
3.1	空間のゆとり		4.2	0.30	-	
1	1 階高のゆとり	階高3.9m以上。	5.0	0.60	-	
2	2 空間の形状・自由さ	-	3.0	0.40	-	
3.2	3.2 荷重のゆとり	床荷重:4500N/m ² 以上	5.0	0.30	-	
3.3	3.3 設備の更新性		4.0	0.40	-	
1	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	
2	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	
3	3 電気配線の更新性	点検口を適切に設け、ケーブルラックを廊下共用部に設けることで配線の更新、修繕ができる計画としています配線の更新性。	5.0	0.10	-	
4	4 通信配線の更新性	点検口を適切に設け、ケーブルラックを廊下共用部に設けることで配線の更新、修繕ができる計画としています配線の更新性。	5.0	0.10	-	
5	5 設備機器の更新性	主要設備機器の更新に対応したルート又はマシンハッチが確保され、かつ更新・修繕時に運物機能を維持できる状況。	5.0	0.20	-	
6	6 バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースが計画的に確保されている。	4.0	0.20	-	
Q3	Q3 室外環境(敷地内)		0.38		-	1.7
1	1 生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	1.0
2	2 まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40	-	2.0
3	3 地域性・アメニティへの配慮	-	2.0	0.30	-	2.0
3.1	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	
3.2	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	
LR	LR 建築物の環境負荷低減性					3.9
LR1	LR1 エネルギー		0.40			4.8
1	1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m = 0.70	5.0	0.20	-	5.0
2	2 自然エネルギー利用	太陽光発電システムを利用している。	5.0	0.10	-	5.0
3	3 設備システムの高効率化	BEI _m = 0.00	5.0	0.50	-	5.0
4	4 効率的運用		4.0	0.20	-	4.0
4.1	4.1 集合住宅以外の評価		4.0	1.00	-	
4.2	4.2 モニタリング	中央監視システムを利用している。	5.0	0.50	-	
4.3	4.3 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	
4.4	4.4 集合住宅の評価		-	-	-	
4.5	4.5 モニタリング	-	-	-	-	
4.6	4.6 運用管理体制	-	-	-	-	
LR2	LR2 資源・マテリアル		0.30			3.1
1	1 水資源保護		3.4	0.20	-	3.4
1.1	1.1 節水	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	
1.2	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	
1.3	1.3 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	
1.4	1.4 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	
2	2 非再生性資源の使用量削減		3.1	0.60	-	3.1
2.1	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.11	-	
2.2	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	
2.3	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	
2.4	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床: ビニル系床材, 天井: ボード	4.0	0.22	-	
2.5	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	
2.6	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.22	-	
3	3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	3.0
3.1	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	
3.2	3.2 フロン・ハロンの回避	-	3.0	0.70	-	
3.3	3.3 1 消火剤	-	-	-	-	
3.4	3.4 2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	
3.5	3.5 3 冷媒	-	3.0	0.50	-	
LR3	LR3 敷地外環境		0.30			3.7
1	1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO ₂ 排出率35%。	5.0	0.33	-	5.0
2	2 地域環境への配慮		3.1	0.33	-	3.1
2.1	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	
2.2	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	
2.3	2.3 地域インフラへの負荷抑制	-	3.5	0.25	-	
2.4	2.4 1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	
2.5	2.5 2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	
2.6	2.6 3 交通負荷抑制	一般車両用駐車場入口と搬入用車両の入口を分けて動線を分離させて周辺道路に渋滞を発生させない。	5.0	0.25	-	
2.7	2.7 4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	
3	3 周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	3.1
3.1	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	
3.2	3.2 1 騒音	-	3.0	1.00	-	
3.3	3.3 2 振動	-	-	-	-	
3.4	3.4 3 悪臭	-	-	-	-	
3.5	3.5 3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	
3.6	3.6 1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	
3.7	3.7 2 砂塵の抑制	-	-	-	-	
3.8	3.8 3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	
3.9	3.9 3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	
3.10	3.10 1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。広告物照明の扱いの配慮事項の一部を満たしている。	4.0	0.70	-	
3.11	3.11 2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

堀場エステック福知山工場 建設工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	-	○	-	○	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0	-	1.0	-	2.0	3.0	-	-	-	3.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び室内照明のうちに漏れる光への対策	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能															
3.1.1 昼光率															
4.2.2 自然換気性能															
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性															
1.1.2 高度情報通信設備対応															
1.2.1 広さ感・景観															
1.2.2 リフレッシュスペース															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
3.1.1 階高のゆとり															
3.1.2 空間の形状・自由さ															
3.2 荷重のゆとり															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出															
3.2 敷地内温熱環境の向上															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制															
2 自然エネルギー利用															
3 設備システムの高効率化															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用															
2.5 持続可能な森林から産出された木材															
3.2.1 消火剤															
3.2.2 発泡剤(断熱材等)															
3.2.3 冷媒															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善															